

作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
人間文化学部発達教育学科	川原 健太郎	2024年5月1日

【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

◆前期

生涯学習概論

卒論指導演習 1p

教育の制度と社会(小・中・高)

教育課程論(小・中・高)

教職論(小・中・高)

専門演習

◆後期

基礎ゼミナール 2f

卒論指導演習 2p

教育方法論(商)

教育方法論(小・中・高)

特別活動指導法(商)

卒業論文

※その他、他大学で以下の科目を担当。

春学期 博物館情報・メディア論、教育における ICT 活用(春クォーター、夏クォーター)、教育実習演習(早稲田大学)

秋学期 教育方法・技術論(中・高)、教育における ICT 活用(春クォーター、夏クォーター)、教職実践演習(早稲田大学)

夏季集中 教育課程論(文星芸術大学)

【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

(1)「厳しく楽しく」、(2)「書くことは学ぶこと」を標榜し、授業を実施している。

・(1)声掛けを積極的に行い、学習者が自らに厳しく学びに真剣に取り組み、その学びを楽しめるよう、意識付けを試みている。

・(2)講義形式、演習形式等の授業形態を問わず、授業で多くの文を書き、書きながら学ぶように勧めている。

【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

◆授業の構成

授業は三段構成になっている。

序盤(グループ学習)

- ・教育に関連ニュースを各自で調べノートにまとめてきたものを、学習者同士で共有する。
- グループ学習時間に、授業者は全員分のノートを確認し、口頭でコメントをする。

中盤(一斉学習)

- ・授業者による講義を実施する。
- ・積極的に黒板を活用し、授業者の発言を視角化する。

終盤(個別学習)

- ・学習者がパソコン、スマートフォン等の ICT を使い、小課題を提出。

◆教育関連ニュース調べ学習

序盤の中心となる学習課題。

- ・事前学習の課題とし、学習者全員が調べてノートにまとめ授業に参加する。
- ・課題の内容は「記事のタイトル」、「出典」、「記事の要約」、「感想」。
- ・学習のねらいは、1)教育の時事問題を知る、2)文献引用の基礎力をつける、3)文章の要約力を付ける、4)自らの意見を文章で表現する。
- ・ねらいは、授業内で説明を行い、学習者が4点の力を付けることを意識し、学習をできるように努めている。

◆板書

中盤の中心教材として活用。

- ・併せてノート指導も行っている。
- ・蛍光色チョーク4色(赤、緑、黄、橙)+青+白の計6色で要点をまとめている。
- ・一つの授業内で黒板の記載内容は、消さずすべて残す。
- ・授業を終えた時点で1枚の黒板を使いきる方式にしている。
- ・講義部分の終了時、黒板を使い本時の内容を振り返る際にも活用する。
- ・黒板はデジタル写真で取り、授業後 LMS にアップロードし、授業参加者の復習、授業欠席者の補習に利用する。

◆ICT を用いた小課題への回答

終盤の中心となる学習課題。

- ・毎回、授業の内容に合わせた小論文を課題に出している。
- ・提出は LMS を使って行う。
- ・序盤の調べ学習は手書きでの文章作成だが、終盤の小課題は ICT を使った文章作成を行う。
- ・アナログ、デジタル両方で文章を書く機会を一つの授業内で設けている。
- ・回答は個人で考え、個人で学習課題に向き合う時間としている。

【成果】(その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど)

全体的に授業の学習を理解し、考えが深まっている様子が見受けられる。

具体的には以下の変化が例に挙げられる。

序盤(グループ学習)

- ・授業回の進行に連れて、学習の深化が見られる。以下に例を示す。
- ・一つのテーマを決めて、継続的に追う。
- ・新聞記事等の積極的な切り貼りをし、見やすく工夫をする。
- ・要約に字数制限を課し、要約力を高めるよう図る。
- ・各回の授業テーマを予習し、そのテーマに合わせたニュースを調べる。(「子どもの貧困」が課題の回にそのニュースを調べる等。)
- ・教員志望者は自らが教員としてその課題にどう立ち向かうかなど実践に即した感想に変化する。

中盤(一斉学習)

- ・学習者のうなずき、視線、発言を確認した際は、授業者が積極的に応答をしているため、より積極的な傾聴姿勢となっている。
- ・授業の板書の記録がより濃密になっている。(授業者の発言を積極的にメモしている。)
- ・授業時に調べるよう指示した重要用語を教育事典・辞典等で調べ追記する、

終盤(個別学習)

- ・小課題への回答内容が多くなり、内容もより授業を反映したものとなっている。

【目標】(今後どうするか)

- ・学習の様子や毎学期の授業評価をみる限りは、学習者自身が学びを深めているように見える。
- ・しかしながら、成果で挙げた学習者の変化は、一部に留まっており、すべての学生が行っているものではない。
- ・それぞれの学習者が、自らの力の範囲内で少しでも前進できるような授業を進めたいと考えている。